

2023年2月14日

岐阜市長  
柴橋 正直 様

よみがえれ長良川実行委員会  
共同代表 粕谷志郎 亀井浩次

## 長良川の環境保全について（要請書）

日頃の環境保全行政にかかわるご努力に敬意を表します。

私たちは、長良川の環境改善を求め、長良川河口堰の開門調査や木曾川水系連絡導水路事業の中止を求める市民団体・グループです。

度重なる甚大な自然災害の発生のもと、現在「国土強靱化」として河川工事が大々的に展開されています。長良川においても「洪水対策」として国、岐阜県が河畔林の伐採、河原の掘削工事を進めています。しかし、美しい景観や生きものの生きる場が失われていく状況に、市民は不安を持っています。治水工事の重要性は理解しますが、宝である長良川の自然と歴史・文化を手放すようなことになってはなりません。速やかに環境保全の措置をとってください。

長良川河口堰は運用されて以来、海と川を行き来する生き物の大きな障害となりました。長良川のアユは、人の手を借りなければ子孫を残せていない状況となっています。私たちは、その生きものたちの実態をしっかり見極め、その障害を少しでも取り除くことに努力しなければなりません。現在、岐阜市は「レッドリスト」見直し作業を進めていますが、その検討状況は市民には公開されていません。私たちは、行政や経済団体の意向に忖度し「生きものたちの実態」から目を背ける動きを危惧しています。レッドリスト見直しについては、生物多様性保全を基本に専門家の意見を重視し科学的な視点で行ってください。

木曾川水系連絡導水路計画では、長良川に渇水時の環境改善を目的に徳山ダムの水を流すものとされています。しかし、この計画は長良川の環境悪化を引き起こすものとして地元岐阜市民を中心に大きな反発があり、現在事業は凍結され検証中となっています。市長におかれましては、市民の環境悪化を危惧した「事業中止」の声をしっかり受け止め「関係自治体検討会議」に反映させてください。

以上の趣旨から私たちは、下記の事項を要請します。回答をお願いするとともに対話の場を設けていただくようお願いいたします。

### 記

1. 「国土強靱化」事業に対する環境保全措置を速やかに行ってください。
2. 「レッドリスト」の見直しについては、専門家の意見を重視し、市民に開かれた検討のもとに行ってください。
3. 木曾川水系連絡導水路事業の検証については、長良川の環境保全の立場から事業中止を求める立場で臨んでください。

「2/14 要請書」提出後の情勢の変化を踏まえて追記します。

長良川河口堰は運用されて以来、海と川を行き来する生き物の大きな障害となりました。長良川のアユは、人の手を借りなければ子孫を残せていない状況となっています。さらに地球温暖化の影響も加わって、岐阜県では長良川のアユが激減することさえ考えられるとされています。私たちは、生きものたちの実態をしっかりと見極め、その生息への障害を少しでも取り除くことに努力しなければなりません。

岐阜市は「レッドリスト」からアユを除外しましたが、多くのアユが住む豊かな長良川の自然を取り戻すために、生物多様性保全を基本とした専門家の意見を重視し、科学的な視点での自然環境の評価と保全を行ってください。

2月14日の突然の名古屋市長の「導水路容認」発言によって、事業継続の動きが強まりました。しかし、導水路事業による長良川の環境悪化への岐阜市民の危惧は変わりません。予想される検証の場で、岐阜市は長良川の環境保全の立場から「事業中止」を強く訴えてください。

この間の、長良川の河川工事による環境改変を見て、市民は「やりすぎ」との声を高めています。環境保全の立場から、岐阜市は、国・県に対し積極的に工事の調整をしてください。